

# 日照不足と長雨に係る農作物等の技術対策

平成 27 年(2015 年) 9 月 9 日

山 口 県 農 林 水 産 部

## 1 水 稻

### (1) 日照不足対策

- ① コシヒカリ、ひとめぼれの収穫作業に向けて、排水溝等を設置する等ほ場の排水に努め、地耐力の向上に努める。
- ② 本年は、ほ場内や株内の熟れムラが大きいと考えられ、収穫時の水分が平年より高いと予想されることから、必要に応じて区分荷受を行い、急速な乾燥調製をさける。

### (2) 病虫害防除対策

〈穂いもち〉

- ① 穂いもちの防除を徹底する。粉剤・液剤では穂揃期に防除する（7 月 27 日注意報、8 月 12 日技術資料発表）。ただし、薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する。
- ② 穂いもちの穂揃期防除が終わっている場合でも発生の拡大が懸念される場合は使用基準を遵守し追加防除を実施する。

〈斑点米カメムシ類〉

- ① 斑点米カメムシ類の発生はやや多いため、穂揃期の防除を徹底し、その後も発生が認められる場合はさらに追加で防除を実施する。

〈共通〉

- ① 薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布を行うことも必要となり、その場合、散布後 3～4 時間は降雨がないことが望ましい。

※次の資料を参照のこと

「平成 27 年度農作物病虫害発生予察注意報第 2 号（いもち病）」

「平成 27 年度農作物病虫害発生技術資料第 6 号（いもち病）」

「平成 27 年度農作物病虫害発生技術資料第 10 号（斑点米カメムシ類）」

「水稻生育・栽培管理技術資料（No. 7）」

## 2 大 豆

(1) 明渠を点検し、ほ場の排水に留意する。

(2) 日照不足で莢数の減少が懸念されるため、病虫害防除を徹底する。

## 3 野 菜

(1) 降雨が続く場合は、排水溝の点検を行うなど、ほ場内の排水に留意する。

(2) 葉菜類は、各地域や品種で定植晩限を定め、ほ場準備を決断する。悪条件での畝立ては一発成形が適する。苗は水のみで管理し、定植の目処がたてば液肥を施用する。

- (3) 果菜類は、果実の若どりや摘果（花）を行い、草勢の回復を図る。また、過繁茂した茎葉は間引きせん定を行い、下葉や病葉を除去して通風をよくするなどして地上部の負担をできるだけ軽減する。
- (4) イチゴのほ場準備ができない場合は、古ビニール等により天井被覆し、ほ場乾燥に努める。
- (5) 病害の多発が予想されるので、病害の早期防除に努める。  
施設野菜では、ハウス内が過湿にならないよう換気に努める。

#### 4 花き

- (1) 降雨が続く場合は、キクでは黒斑病、ユリ類・リンドウでは葉枯病等が発生しやすくなるので、雨上がりには防除を徹底する。
- (2) 施設栽培では灰色かび病等の発生が多くなるので防除を徹底する。
- (3) 施設花きでは、湿度が高くなると、病害の発生、軟弱な生育が多くなるので換気の徹底や循環扇、加温機を利用して湿度低下に務める。
- (4) 不要な枝梢や下葉を取り除き、通風を図る。

#### 5 果樹

##### (1) 全般

降雨による土壌中の酸素不足で、根傷みが懸念されることから、排水溝により雨水を効率よく園外に排出する等、排水対策を徹底する。

##### (2) カンキツ

###### ① 着果管理

温州みかんは、M・L果中心の果実となるよう果実肥大や着果の状況に応じて仕上げ摘果を的確に行う。

中晩柑の豊作樹では、葉果比100を目安に早急に小玉果を除去する。不作樹では、部分的に着果があるため樹上選果を行う。夏秋梢は現時点ではせん除せず、春のせん定時に処理する。

###### ② 品質向上対策他

8月の多雨により糖、酸とも低く推移している。園周囲の雑木の伐採や防風樹の刈込みを行い日当たりを良くする。

着果の多い樹では枝つりを行い、樹体全体に日光をあてる。天候回復後は、日焼け果の発生に注意し、果皮の強化に努める。

有効土層が浅く、乾きやすい園地の高糖系品種では、9月上旬にマルチを被覆しても糖度向上が望める。

温州みかんでは、果皮強化（浮皮軽減）対策で水溶性カルシウム剤を9月から10月に10日おきに2～3回、品質向上対策でエチクロゼート乳剤の散布がされていない園では9月に2週間間隔で2回散布し、併せて液肥（リン酸剤）の葉面散布を行う。

黒点病（平年並予想）、かいよう病（やや少予想）、ミカンハダニ（多予想）の発生に注意し、病害虫防除を的確に行う。

### (3) ナシ

成熟期は早まっており適期収穫に努める。

水浸状果等の生理障害が懸念されるので選果を徹底する。

花芽着生不良等が懸念されるので日当たりの改善等に努める。

黒斑病、黒星病の発生に注意し、病虫害防除を的確に行う。

### (4) ブドウ

裂果による腐敗等が懸念されるため品質を確認し、収穫、出荷を行う。

べと病の発生に注意し、病虫害防除を的確に行う。

### (5) その他

クリの実炭疽病、りんごの斑点落葉病、カキの炭疽病等、病虫害防除を的確に行うとともに選果を徹底する。

## 6 飼料作物

(1) 軟弱に生育して倒伏し易くなったり、湿害による収量低下となるので、ほ場周囲の排水溝を掘り、排水対策に努める。

(2) 倒伏又は湿害により生育の見込みがないものは、早期に刈り取り給与するか又はサイレージ、乾燥等の貯蔵飼料として利用する。また、発芽不良や再生見込みがない場合は再播種する。